

| | | | | | |
|---------------|-----------------------|-------|-------------------------|-------|--------|
| 施策番号 3-3-1 | 施策名 地域で支え合う福祉社会の実現 | 基本目標 | 誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり | | |
| | | 政策名 | 住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実 | | |
| | 主管課 | 保健福祉課 | 課長名 | 大野 邦彦 | 内線 550 |
| | 施策関係課 | | | | |

1. 施策の方針と成果指標

| 施策の方針 | | 対象 | 意図 | | | | 結果 |
|---|---|----|-----------------|----------|------------|----------|-------------------------|
| 年代や世代、性別、障がいの有無に関わらず、地域全体がお互いに支え合える体制づくりをすすめます。 | | 町民 | 住民同士で支え合う体制をつくる | | | | 住み慣れた地域で安心した生活を送ることができる |
| 成果指標 | 説明 | 単位 | 策定時(2017実績) | 2019年度実績 | 2020年度(予想) | 2022年度目標 | |
| ① ボランティア活動に参加した町民の割合 | 住民意識調査 | % | 31.4 | 30.5 | 35.0 | 35.0 | |
| ② たすけあい活動参加町内会(市街地)・行政区(農村部)数 | 社会福祉協議会調べ | 件 | 51 | 52 | 52 | 55 | |
| ③ 住んでいる地域は、住民同士支え合う体制ができていると思う町民の割合 | 住民意識調査 | % | 51.0 | 57.1 | 80.0 | 80.0 | |
| ④ | | | | | | | |
| 成果指標設定の考え方 | ① ボランティア活動への参加が、住民同志のコミュニケーションづくりに繋がることから、成果指標に設定した。 ② たすけあい活動への参加が、町内会活動など住民同志の支え合いに繋がることから、成果指標に設定した。 ③ 地域住民の支え合いに関する意識を客観的に表す指標として、住民意識調査を成果指標に設定した。 各成果指標とも策定時の数値を上回ることを目指し、目標値を設定した。 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更) | | | | | | |

2. 施策の事業費

| | 2018年度決算 | 2019年度決算 |
|-----------|----------|----------|
| 施策事業費(千円) | 25,513 | 35,577 |
| 人工数(業務量) | 1,3088 | 1,5624 |

3. 施策の達成状況

| (1) 施策の達成度とその考察 | | | |
|------------------------------|---|--------------------------|---|
| ①2019年度の成果評価 | <input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した | 想定される理由 | 成果指標①は微減、②③は増加傾向にある。数値による客観的な成果は認めづらいが、ボランティアセンター登録団体による色々な取組みが継続・拡充されている。 |
| ②2022年度の目標達成見込み | <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい | 根拠(理由) | ・ボランティアセンター登録団体数は横ばいから微減傾向で推移しているが、現在登録している団体は、各々定期的・継続的に活動している。 ・福祉施設等の依頼によるイベント・外出行事の個人ボランティアや事業に対する協力も継続されているなど、地域内の相互援助に関する意識醸成も一定程度進んでいる。 |
| (2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括 | | | |
| ①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業 | 社会福祉協議会活動支援事業 ボランティアセンター運営支援事業 | ②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業 | |
| ③事務事業全体の振り返り(総括) | ・「社会福祉協議会活動支援事業」→たすけあいチームへの加入促進に向けた継続した取り組みにより、身近な地域での助け合い活動の拡大を図った。 ・「ボランティアセンター運営支援事業」→ボランティアセンターとめむろ柏ふまねっとクラブが共生型施設ふれあいサロン「なごみ」で普及に努めていた「ふまねっと講座」が拡大し第2会場として保健福祉センターでも実施されるようになったが、登録団体の減少により、成果指標の向上には繋がらなかった。 | | |

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

| | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|
| 進捗結果 | A | B | C | D | E |
| | | | | ○ | |

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

| | |
|-----------------------------------|--|
| 施策を取り巻く状況と今後の予測 | <p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、核家族化、地域社会における関係の希薄化・孤立化などの社会情勢において、住民同士の支え合い体制の構築が必要。 <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉を推進する中核的な団体である芽室町社会福祉協議会やボランティアセンターの活動が重要。 ・「向こう三軒両隣」により支え合いの再認識。 ・地域活動の担い手の育成や活動団体支援。 |
| この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？ | <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員の定数割れや、民生委員児童委員のなり手不足について、議会から意見がある。 |

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

| | |
|-----------------------|--|
| ●取組み① 地域福祉を推進する体制づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・本町における地域福祉を推進する中核的な団体である芽室町社会福祉協議会が核となり、団体、事業者など幅広い地域資源が、それぞれの特性を十分発揮できるよう役割を明確にし、連携できる体制の構築が必要である。 |
| ●取組み② 地域における支え合い活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・「向こう三軒両隣」により支え合いの再認識、また、地域活動の担い手となる人材の育成や活動団体設立・活動支援が必要である。 |
| ●取組み③ 民生委員の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員の担い手確保が大きな課題となっている。本町においても2地区の委員が欠員となっており、継続して登用を進める。 |

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

| | | | | | | |
|-------------|---|---|---|---|---|---|
| 評価 | 様々な取組を行っており、策定時と比べ成果指標が上昇しているものもあるが、住民意識調査の選択項目減もあり、策定時と比較して変わらないと評価する。 | A | B | C | D | E |
| | | 進捗結果 | | | | ○ |
| 今後の取組に対する意見 | 行政の取組はすぐに成果には表れないが、継続的な取り組みを行ってほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した | | | | |

7. 総合計画審議会(外部評価)

| | | | | | | |
|-------------|---|---|---|---|---|---|
| 評価 | 庁内評価と同じく策定時と比較して変わらないと評価する。 | A | B | C | D | E |
| | | 進捗結果 | | | | ○ |
| 今後の取組に対する意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員については今後さらに空白地区が増えると予測されるため、できるだけ早く方向性だけでも決めてほしい。 ・ボランティアなどの住民活動をした際の保険制度について、もっと広く町民に周知するべきである。 | <ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した | | | | |